

真備地区の復旧・復興に向けた 取組状況について

～ 目次 ～

1. 河川事業の進捗	…p 1
・小田川及び支川における堤防強化等の 工事について(国・県・市)	…p 2
・小田川合流点付替え事業の工事状況(国)	…p 3
・新柳井原橋開通式の状況(8月17日)	…p 5
・小田川における堤防強化等の工事状況(国・市)	…p 6
・末政川・高馬川・真谷川における 堤防強化等の進捗状況(県)	…p 8
・有井橋架替工事に伴う橋梁部の 全面通行止めについて(県)	…p 9
・河川工事に伴う道路改良の工事状況(県・市)	…p 10
・高梁川の堤防強化の進捗状況(国)	…p 11
2. 復興防災公園(仮称)の整備	…p 12
・復興防災公園(仮称)の整備(市)	…p 13
3. 生活支援などの状況	…p 16
・住宅支援	…p 17
・被災者見守り・相談支援	…p 18
4. 地域防災力向上への取り組み	…p 19
・指定緊急避難場所の拡充	…p 20
・避難地・避難路の整備(岡田小学校周辺整備)	…p 21
・防災教育の推進	…p 22
・地域防災力の強化	…p 23
・防災の普及・啓発	…p 24
・被災地への支援	…p 25
・流域治水の推進	…p 26
5. 復興状況に関する住民意識調査	…p 27
6. にぎわい創出に向けた取り組み	…p 29
・真備のにぎわい創出に向けた 地域活動への支援(例)	…p 30
7. 真備地区復興計画の推進について	…p 32

1. 河川事業の進捗



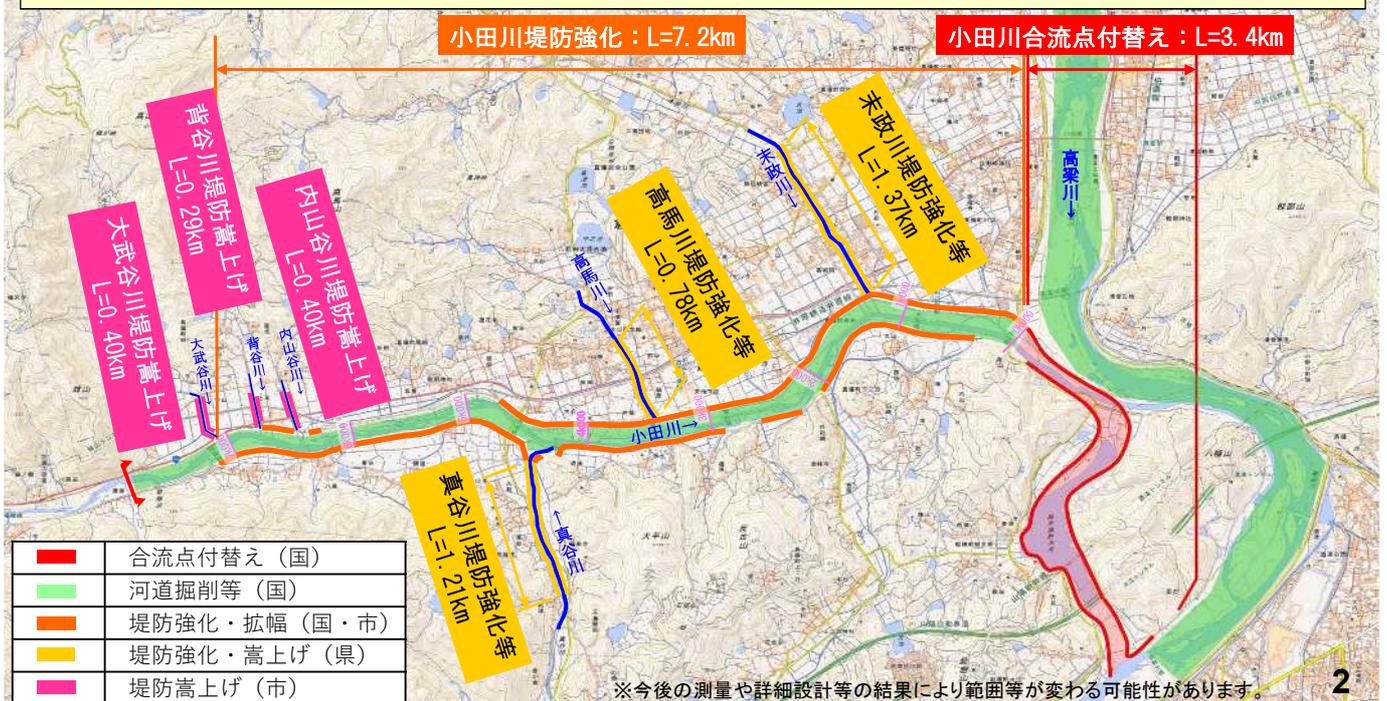
1

小田川及び支川における堤防強化等の工事について

(国・県・市)



- 国・県・市の連携・協力により、小田川及び県管理河川（未政川、高馬川、真谷川）、市管理河川（大武谷川、背谷川、内山谷川）において、小田川合流点付替え事業や重点的な堤防整備（堤防強化、堤防嵩上げ等）を行うとともに、高梁川・小田川の河道掘削等を実施



2

- 現在、南山の掘削（①）や柳井原貯水池掘削で発生した土砂や岩砕を有効活用した築堤を実施中（②）。また、令和4年8月17日に、新たな小田川の河道となる場所に架かる新柳井原橋が開通（③）



【進捗率】

設計	100%
用地・補償	100%
工事	67%

工事内容	2018	2019	2020	2021	2022	2023
仮設工事	■					
掘削・築堤		■	■	■	■	■
貯水池河道整正			■	■	■	■
橋梁架設			■	■	■	■

R4.8.17開通

※令和4年10月15日時点





【令和4年8月撮影】

【テープカットの様子】



【令和4年8月撮影】

【渡り初めの様子】



【令和4年8月撮影】

【親柱の除幕の様子】



【令和4年8月撮影】

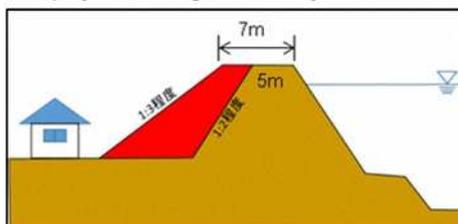
【橋梁通行状況(開通2週間後の様子)】

小田川における堤防強化等の工事状況(国・市)

○ 小田川等の河道掘削で発生する土砂を有効活用し、国と市が連携・協力して堤防強化を実施。一部の区間を除いて令和4年3月末に完成



堤防断面拡大整備イメージ

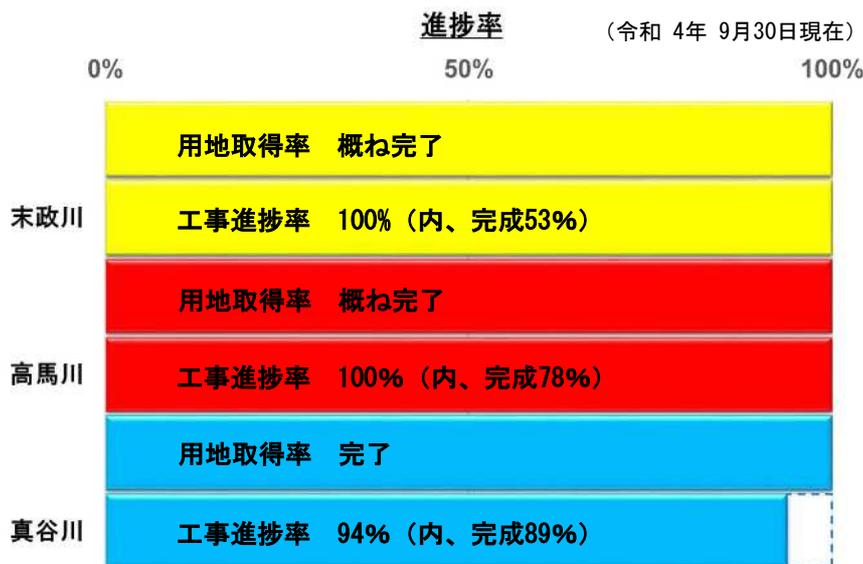


【一部完成に伴う一般開放の様子】
有井・川辺地区(北側)

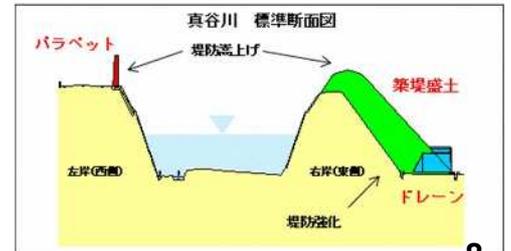
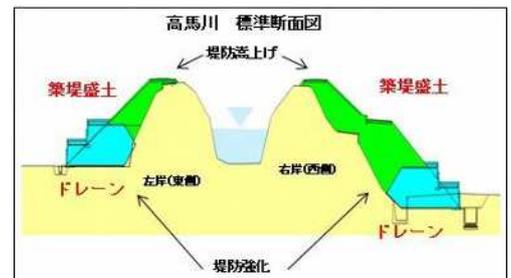
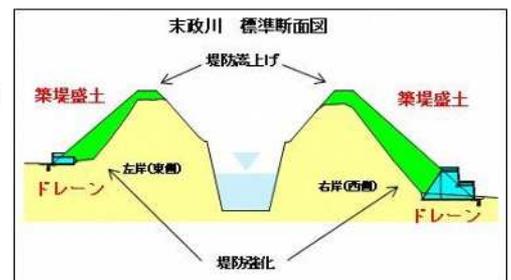


末政川・高馬川・真谷川における堤防強化等の進捗状況（県）

○ 県河川の堤防強化等を実施。令和5年度末に工事完了予定



※真備3河川全体
 用地取得率 概ね完了
 工事進捗率 98% (内、完成72%)
 ※工事進捗率には、完成箇所延長とR4年度工事着手延長を使用しています。



- 未政川堤防嵩上げ及び有井橋架替による陸閘の解消
- 令和3年4月から概ね2か年、有井橋を全面通行止め。令和4年度中の完成予定

【未政川・有井橋整備による効果】

- ・ 有井橋を堤防より高い位置で架け替えるため、陸閘構造が解消され、増水時の流れが安全でスムーズになる
- ・ 堤防をふさぐ必要がなくなるため、増水時にも通行が可能になる（災害発生時の避難や緊急車両の通行も可能）

【現在の状況】

- ・ 令和4年7月13日に橋梁の桁架設が完了し、現在、上部工を実施中

【整備イメージ】

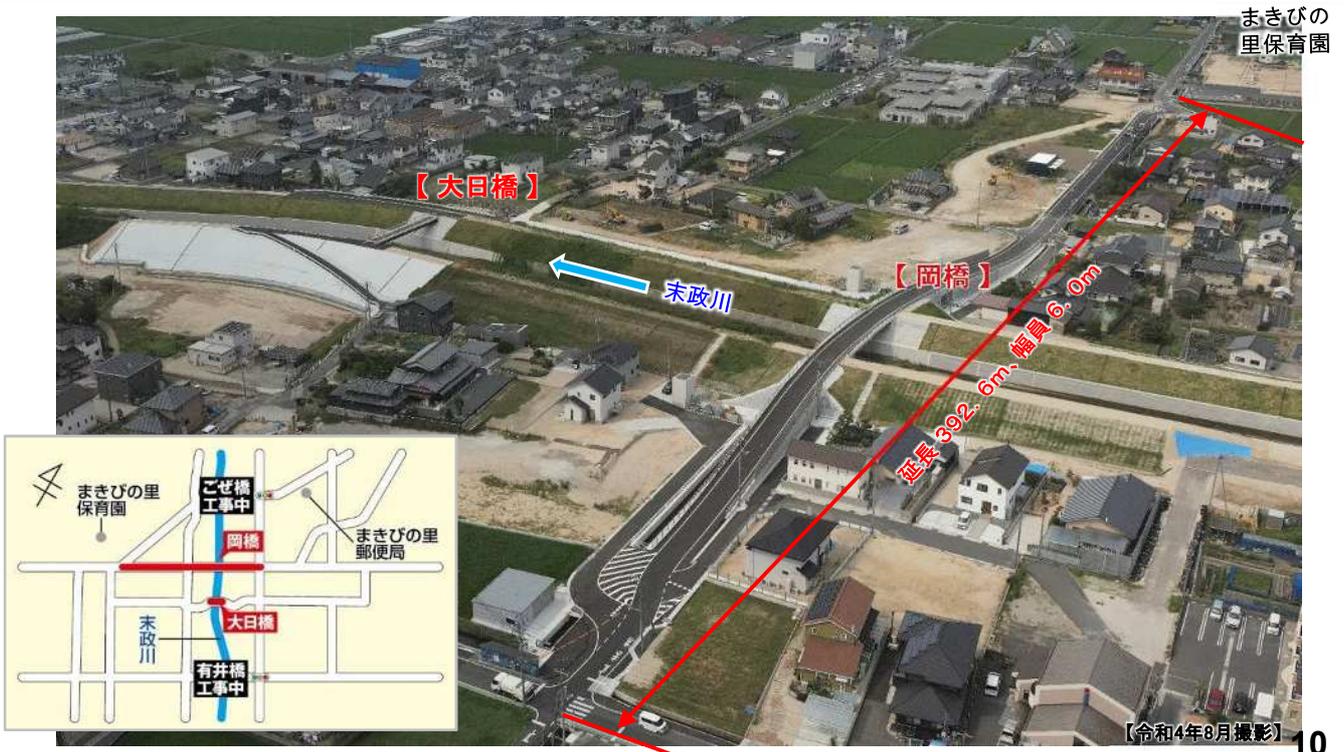


【施工状況】



河川工事に伴う道路改良の工事状況（県・市）

- 河川の災害復旧・堤防強化に併せて、橋梁の架替えや道路拡幅等を実施
- 未政川に架かる岡橋・大日橋の復旧工事が完成し、令和4年8月1日に開通。岡橋は避難路として道路を3mから6mに拡幅、大日橋は歩行者用の橋として再整備



- 井原鉄道～川辺橋の区間（①工事延長 約1,300m）及び川辺橋～上流の区間（②工事延長 約600m）において、令和3年度末に川側の護岸強化整備が完了
- 引き続き「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」予算などを活用し、堤防道路の嵩上げ及び居住地側の浸透対策を実施予定

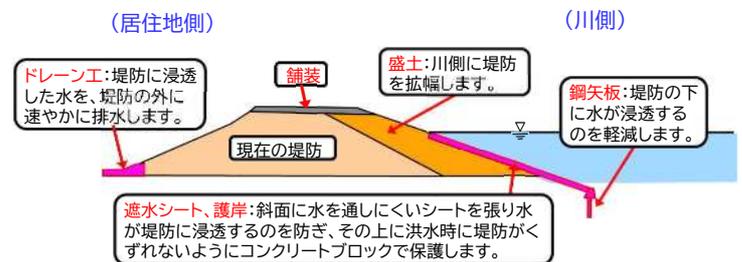


※工事実施範囲等は現地状況等により変更となる場合があります。

【堤防強化の整備状況】



【堤防強化のイメージ】



2. 復興防災公園（仮称）の整備



【小田川堤防道路でサイクリング】

復興防災公園(仮称)の整備(市)

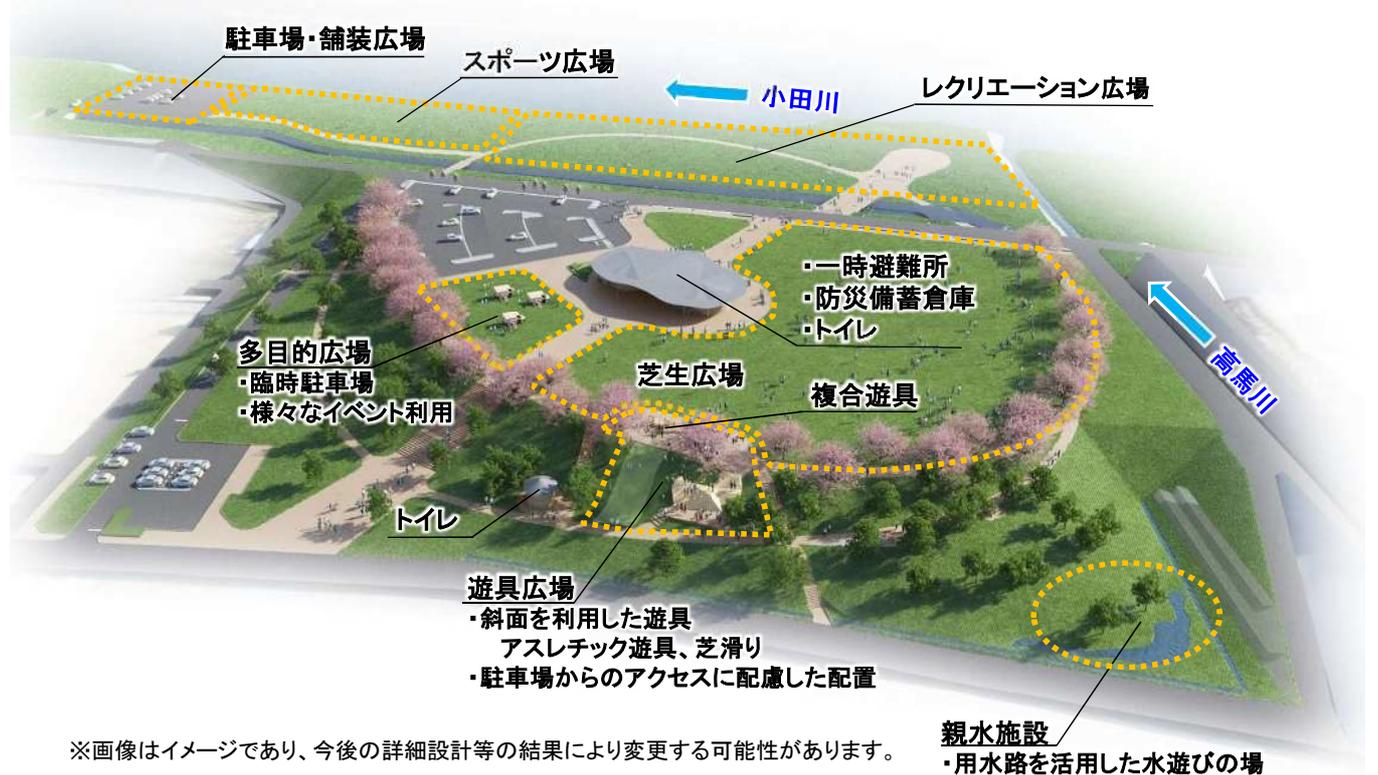
- 復興防災公園(仮称)の詳細設計を実施中
- 令和5年度末の完成を目指し、年内に公園工事に着手予定

【令和4年10月撮影】



復興防災公園(仮称)の整備(市)

- 復興防災公園(仮称)イメージ図



○復興防災公園(仮称)の主な整備内容(案)

- ・ 平常時は真備地区の復興のシンボル、**防災教育の場**であり、災害時は**防災拠点**や**一時避難所**となるような、両方の機能を持った希望の公園
- ・ **まちと公園をつなぐ楕円形(オーバル型)の園路と公園の中央を通る「希望のミチ」**
- ・ 公園の中心には、来園者を迎える「竹のゲート」として、**真備特産の竹を意匠に使った建屋**
- ・ **建屋**には、休憩室やトイレのほか、防災備蓄倉庫を整備するとともに、真備の復興状況や歴史・伝承等、様々な展示が可能なスペースを確保
- ・ **休憩室**は、防災教育や会議等にも利用可能であり、災害時には避難場所としても利用可能
- ・ 公園には、多目的広場や遊具広場、親水広場、芝生広場等を整備
- ・ **多目的広場**は、イベントの拠点として利用可能。コンセント設備を備え、様々な利活用を想定
- ・ **遊具広場**は、ワークショップやアンケート等の意見を反映し、複合遊具や斜面を生かした芝滑り、アスレチック遊具のほか、利便性を高めるトイレ棟を追加
- ・ **親水広場**は、用水路の水を活用した水に近づける空間
- ・ オーバル型の**園路**沿いは桜並木とし、特徴的な桜の丘として感じられる空間
- ・ 小田川沿いの**河川敷**にもオーバル型の園路を接続し、スポーツやレクリエーション等に利用できる公園の一部として一体的に整備



真備復興懇談会で復興防災公園(仮称)の説明を行う隈研吾氏 15

3. 生活支援などの状況



外観

屋上は、浸水時の緊急避難場所として使用できるよう設計



まきびの里保育園の新園舎と子どもたち

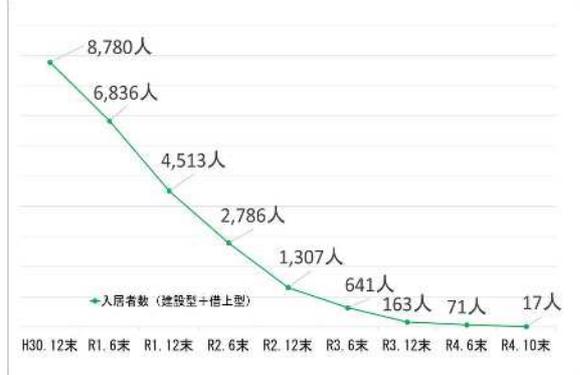
- 仮設住宅に居住している方は、現在 17人 にまで減少
- 令和4年9月に、建設型仮設住宅の全入居者が退去

入居等の状況

建設型仮設住宅	0戸	0人
借上型仮設住宅	7戸	17人
公営住宅等（一時入居）	0戸	0人
応急修理の申込（R2年12月で完了）	1,033件	
リバースモーゲージ型融資の申込	142件	
住宅災害復旧等利子補給金の申込	571件	

※令和4年10月末時点（真備地区における被災世帯）

【仮設住宅における入居者の推移】



- 真備地区の民間賃貸住宅に、現在、12世帯が入居

・倉敷市被災者向け民間賃貸住宅家賃助成事業を活用

- 災害復興住宅融資の申請期限の延長

・令和5年8月末日まで延長

被災者見守り・相談支援

- 「倉敷市真備支え合いセンター」が、現在、以下の取組を実施

訪問世帯数：延べ約 46,750世帯

※令和4年10月末時点

※ 仮設住宅の入居者をはじめ、約40世帯に定期的な訪問を実施

- ・ 仮設住宅等の個別訪問を行い、見守りや生活上の困りごと等の傾聴・支援機関への繋ぎ
- ・ 個別支援会議等による、複合的課題を抱える世帯の生活再建に向けた、多機関連携型の支援

設置場所：真備保健福祉会館（真備支所の隣）

職員数：約10人

※倉敷市社会福祉協議会に委託



真備支え合いセンターが送付した「絵手紙」



- 平成30年7月豪雨では、災害時の指定緊急避難所である岡田小学校へのアクセス路が狭いので、多くの車で渋滞した
- このため、本整備により、避難所までのアクセス路の道路拡幅および避難場所の確保を行うもの。令和4年8月末に着工し、令和4年度中の完成予定



【令和4年9月撮影】

駐車場 約0.2ha（約90台分）
 平常時：小学校敷地
 災害時：避難地
 道路拡幅 4m⇒7mへ拡幅
 平常時：通学路
 災害時：避難路

地域意見を反映



岡田小学校避難所の状況（平成30年7月豪雨）



被災地域の方と行政職員によるワークショップを開催（令和元年度）

- 倉敷市の地域性を反映することや、児童生徒が災害に対して「わがこと意識」を高め、「自助」「共助」の姿勢をもつことを重点とした防災教育を推進

【新たな取組】

- ・全市立小学校（61校）の3年生、5年生に新たに3時間の防災学習（総合的な学習の時間）を追加し、全ての学校で共通した内容を指導
- ・防災教育の視点を盛り込んだ小学3・4年生社会科副読本作成支援
- ・マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」、倉敷市洪水・土砂災害ハザードマップの市内全小学校への配付など
- ・令和4年度からは、全市立中学校（26校）の2年生においても新たな防災学習（総合的な学習の時間）を実施



（マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」を活用した学習）



（防災安全マップ作成のためのフィールドワーク資料）



（小学校社会科副読本）



（「自助」だけでなく「共助」の姿勢をもつための中学校でのモデル授業）

○ 防災・減災のために、地域の防災力を強化しよう！

【自主防災組織の設立】

いざというときお互い助け合うため、平常時から防災・減災活動を行う組織です。

- ・ 492団体（うち、**真備地区 5 6 組織**）
（昨年より+18団体）
- ・ 世帯カバー率 78.14%



【地区防災計画の策定】

災害が起きた時に、住民の力を結集して命や財産を守ることを目指す計画で、住民等が自ら策定するものです。

- ・ 現在3地区で策定済み（うち、**真備地区 1 地区**）
- ・ R4年度 6 地区で策定予定（うち、**真備地区 4 地区**）



【防災士の育成】

「自助」「共助」の取り組みを進め地域の防災力を高めるための人材を育成しています。

- ・ 現在 4 4 4 人が資格取得 【市の支援制度を活用された方】
（令和 4 年度 5 1 人が取得）



23

防災の普及・啓発（総合防災訓練）

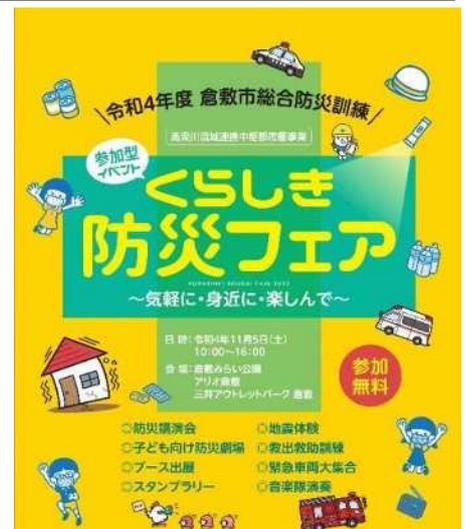
○ 令和 4 年 1 1 月 5 日に、住民参加型のイベントや全市一斉の防災訓練を実施予定

【くらしき防災フェア】（新規）

日時：令和4年11月5日（土）10時～16時

会場：倉敷みらい公園、アリオ倉敷、三井アウトレットパーク倉敷

- ・ 防災の普及・啓発を目的に、大人から子どもまで、「気軽に・身近に・楽しんで」をコンセプトにした参加型イベント
- ・ 体験型ブースやステージイベントなど、防災について楽しく学べるような内容を提供
【高梁川流域連携中枢都市圏事業】



【全市一斉市総合防災訓練】（継続）

日時：令和4年11月5日（土）9時～

会場：各地域

- ・ 南海トラフ巨大地震などの発生に備え、市総合防災訓練を実施予定
- ・ 当日は、屋外拡声塔から訓練開始の合図を放送し、各地域での自主的な地区訓練などを実施予定

※ いざという時の行動や災害への備えについて、日頃から、各家庭で考え、話し合い、準備し、訓練当日は、点検・確認する機会にしてください



地域の避難訓練の様子

24

○新潟県村上市・新潟県関川村・山形県飯豊町・静岡県静岡市における災害支援

【令和4年8月3日からの大雨による浸水・土砂被害に対する被災地への支援】

- ・ 8月7日から8月12日まで新潟県村上市、関川村及び山形県飯豊町に支援物資の搬送、災害廃棄物処理にかかる支援等に職員を派遣

【令和4年9月23日からの台風15号による断水に対する被災地への支援】

- ・ 9月26日から10月5日まで静岡県静岡市に応急給水等の支援に給水車2台、職員を派遣



村上市の市長との面談



村上市への物資の搬送



関川村の村長との面談



関川村への物資の搬送



飯豊町の町長との面談



飯豊町ボランティアセンターでの聞き取り



静岡市内自治会館での市民への給水活動

流域治水の推進

- 気候変動を踏まえた水災害対策に向けて、河川流域の全ての関係者が協働して流域全体で行う治水対策である「流域治水」の推進
- 高梁川水系では、令和3年3月に「高梁川水系流域治水プロジェクト」を策定公表
- ハード・ソフト一体となった事前防災対策をより一層加速化



主な取組み

【氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策】

- ・ 農業用排水機を活用した予備排水
- ・ 用水路の事前水位低下による雨水貯留
- ・ 透水性舗装を用いた歩道整備 等

【被害対象を減少させるための対策】

- ・ 水害リスクを考慮したまちづくりの推進
- ・ 浸水に強い住宅の建て方等の普及促進 等

【被害の軽減、早期復旧・復興のための対策】

- ・ 小中学生を対象とした防災教育の実施
- ・ 防災活動における拠点施設の整備
- ・ SNSや防災ポータルによる情報発信 等

5. 復興状況に関する住民意識調査

- 昨年11月に、住民の皆様の生活再建の状況や課題などを把握するため、アンケート調査を実施

復興状況に関する住民アンケート調査	
調査方法	住民アンケート
	質問紙による郵送自記入・郵送返却
調査対象	被災世帯（真備地区） 発送数：約5,700世帯 回収数：2,360世帯（41.6%）【確定値】
調査時期	令和3年11月上旬～12月末日
主な質問内容	住まい・生活の状況／復興に向けた課題／災害への備え／地域のつながり、など

27

復興状況に関する住民アンケート調査

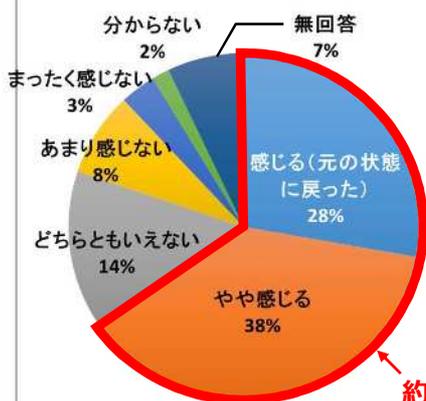


- 治水対策や公共施設の復旧、住まいの確保などの「復旧期」の取組が進み、生活環境の本格復旧を進める「再生期」の段階になっている

復興状況に関する住民アンケート結果（令和3年12月実施）

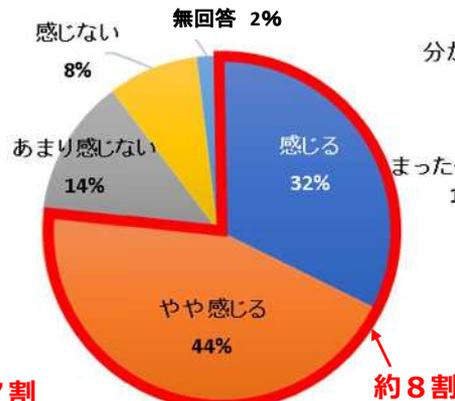
【生活全体】

「災害前の元の状態に戻ってきている」と感じている割合は…約7割



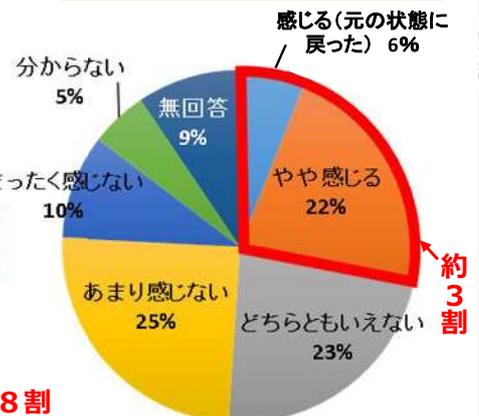
【災害への備え】

「災害直後と比べて記憶が薄れているように感じる」割合は…約8割



【まちのにぎわい】

「災害前の元の状態に戻ってきている」と感じている割合は…約3割



28

6. にぎわい創出に向けた取り組み



【地域集会所の復旧状況】

29

真備のにぎわい創出に向けた地域活動への支援(例)



- 真備のにぎわい創出に向けて、まちづくり推進協議会や各種団体、市民活動団体などが行う活動を支援し、住民主体の地域づくりを促進

まちづくり推進協議会などへの活動支援

※令和4年10月末時点

- 7地区のまちづくり推進協議会の連絡会を定期開催し、地域の連携強化や情報共有、イベントなどの活動再開を支援

・連絡会の開催状況 (R30年度：6回、R1年度：8回、R2年度：11回、R3年度：13回、R4年度：7回)

地域集会所設置費補助金

※令和4年10月末時点

- 被災した地域集会所の復旧に向けた補助制度の拡充 (補助率1/2→5/6) (H31.4.1施行)

・補助対象集会所 30件
実績：19件 (R1年度：7件、R2年度：7件、R3年度：2件(4件分)、R4年度：1件見込)

市民企画提案事業

※現在、令和5年度分を募集中(令和4年10月26日から12月16日まで)

- 地域の身近な課題を解決するため、市民活動団体と市が一緒になって実施する協働事業や、市民活動団体が単独で実施する公益的な自主事業を募集

・過去の採択：地域防災リーダーや福祉ボランティアの育成、歴史や景観資源の情報発信、地域交流を促進するイベント開催などに関する活動

30



令和4年9月撮影

7地区のまちづくり推進協議会の連絡会

7. 真備地区復興計画の推進

【真備地区復興計画の基本理念】

豊かな自然と歴史・文化を未来へつなぐ真備
～安心・きずな・育みのまち～

【真備地区復興計画の基本方針】



2019年度～2023年度（概ね5年後の姿を見据える）

真備地区復興計画の改定

- 住民の皆様のご意見を伺いながら、毎年度、復興の段階に応じた取組の見直しを実施

真備地区復興懇談会の開催

- ・ 復興計画に基づく取組の進捗状況の説明や、今後の復興に向けたご意見を伺うため、真備地区の住民等を対象とした復興懇談会を開催（10月9日）

真備地区復興計画推進委員会の開催

- ・ 取組に対する進捗状況や見直し、復興の段階に応じた新たな取組に対するご意見を伺うため、真備地区復興計画推進委員会を開催（11月2日）

スケジュール（案）

	R4年8月	R4年9月	R4年10月	R4年11月	R4年12月	R5年1月	R5年2月	R5年3月
真備地区復興懇談会			●					
真備地区復興計画 推進委員会				●				
真備地区復興計画 の改定	← 取組の見直し・新たな取り組みの検討			← 見直し計画(案)の作成			← 見直し計画の作成 パブリックコメント 策定・公表	